

安曇野市文化振興計画策定市民委員会 会 議 概 要

1	協議会名	平成22年度第6回安曇野市文化振興計画策定市民委員会
2	日 時	平成22年9月28日 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会 場	安曇野市穂高交流学習センター“みらい”地域学習室
4	出席者	笹本委員長、百瀬副委員長、三原委員、濱委員、矢ノ口委員、石田委員、鈴木委員、岡本委員
5	市側出席者	飯沼教育次長、竹内文化課課長、山田文化振興係長、那須野文化財保護係長、三澤文化振興係主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 2人
8	会議概要作成年月日	平成22年9月29日

協 議 事 項 等

1	会議の概要	<p>1 開 会 (竹内課長)</p> <p>2 挨拶 (飯沼次長・笹本委員長)</p> <p>3 協 議</p> <p>(1) 具体的な施策について</p> <p>4 閉 会 (竹内課長)</p>
2	協議概要	<p>(1) 具体的な施策について</p> <p>資料説明 (事務局)</p> <p>①第4章第1節について</p> <p>委員長・この計画の策定により、未来に向けていろいろなことをやっていくということを確認して欲しい。計画の一節ごと、補足する点を上げて欲しい。</p> <p>委員・文章が「検討します」という表現になっているのはなぜか。</p> <p>事務局・施策の実現性を考えると、可能性が薄いものもあり、「検討」とした。文化財指定に関しては、指定することにより制限されてしまうという面もある。文化財登録のように外観を維持しながら活用するという制度もあり、生活様式の変化に応じていく必要があると思う。</p> <p>委員・「検討」としておいて、具体性を持った時に対応を考えたらどうか。</p> <p>委員長・「検討」というのは、「検討した結果、取り止めます」というケースが出ることもある。前向きに「推進する」としていくほうが良い。現状の文化の維持よりは、より良い安曇野の文化を作っていきたい。個別具体的な提案は、手紙、メール等で事務局へ提案して欲しい。</p> <p>②第2節について</p> <p>委員・田淵行男賞写真作品公募などの実施を挙げているが、予算上の裏付けはあるのか？</p> <p>事務局・田淵賞は5年おきで実施してきている。3年おきに実施するという計画もあるが、田淵行男顕彰基金の取り崩しにより、この計画の計画期間である平成29年度までは続けられる見込みである。その後については不明である。</p> <p>委員・基金があるうちは実施して、それが尽きたら取り止めるというのは心配。</p> <p>事務局・市の予算を使うかは、その都度検討することになる。</p> <p>委員長・この計画により、強く提言すれば、予算が無くとも続けることになる。「先人の顕彰」と「現代の文化」のつながりが無い。このあたりは整理して欲しい。</p> <p>③第3節について</p> <p>委員・市民タイムスの記事で、穂高給食センターを歴史資料の整理の場とするとあったが、そのことについてはどうか？</p> <p>事務局・博物館の統廃合等について、資料に載せてある。文書館機能の整備をし、文書の保存活用をはかっていきたい。</p> <p>委員長・空いた施設における文化財保護のための利用は、今から進めていくようにしていただきたい。</p> <p>委員・膨大な資料があるが、その全てを整理するのか？</p> <p>事務局・資料館のうち、活用できる施設は展示または資料保存に生かす。老朽化した施設は取り壊す必要がある。資料を移転する必要がある。</p> <p>委員長・全部の資料をまとめておくのは無理。無理なものは活用したい。学校で使用するということもありえ</p>

ると思う。系統的に足りないものを探したり、整理したりする必要がある。

委員・文化財は財産である。観光や教育に生かすようにしたい。来館者利用が低迷しているような施設で利用する。

委員長・たとえば、文学作品が読まれているうちは良いが、忘れられると誰にも見向きされなくなる。藤村記念館が今年になって、入館者が減っていると聞く。島崎藤村の文学も読まれていない。私たちが環境を整えていかねば文学館の活用にはつながらない。

委員・総合博物館については、給食センターの周りに施設を作るのか？郷土博物館を立て直すのか？どのように考えているのか？

事務局・新施設については白紙の状態である。給食センターに集めたものは、生かせるものは新博物館で生かす。

委員長・廃止とか建設という問題は大変な問題である。どこの施設の資料を移すという書き方よりも、まずは柔らかなニュアンスで記載したい。

#### 第4節

委員・財団の資料については触れなくて良いのか？

事務局・文化財団の資料については「その目的とする文化事業」として活用しているという点で触れている。この計画の施策としては取り上げていない。財団も法人改革によって活用を模索しているので、それを見守りたい。

委員・合併20周年の市誌編纂についてはどういうことか。

事務局・現在は、古文書の収集、整理に着手している。市の統一的な資料は無い。

委員長・20周年でやるということは問題かもしれない。市誌の編纂は継続して続けていくものである。「合併20周年」という言葉を取ってもよい。文化を作る者としては、20周年を過ぎたら終わりとなる可能性があることはやめたい。安曇野市は永続的に古文書を整理してきている。このことは素晴らしいことだ。

委員・文化財の継承をしていかねばならない。有形のものは良いが、無形のものをどうやって継承していくべきか、具体的にしたい。

委員長・文化育成のための人材、文化の継承のためのデジタルアーカイブ両方が必要。消えかかっているものは早急にデジタル化して保存する必要がある。

事務局・地道な活動が必要との位置付けとして20周年の市誌のことに触れた。

委員長・文案についてはもう一度考えて欲しい。

#### 第5節

委員・企業のメセナ活動の件と文化財団構想について具体的に説明して欲しい。

事務局・メセナ活動については、市内の企業から文化助成をしていただきたいという希望を載せた。財団については白紙の状態である。現在の指定管理の検証をして、現在は直営の施設の指定管理についても検討が必要。指定管理はホール活動の方が効果的だが、現在、そのような施設は市にはない。

委員・「安曇野学」講座は、行政と市民とともに協働で進めるのか？

事務局・「安曇野学」講座は現在始めている。市民との協働による学習はこの他にも考え、実施する必要がある。

委員長・このことについては膨らませて行って欲しい。この施策は市民のことが弱い。文化は作られていくもので、過去の人たちを超える人材を育成していかねばならない。もっと豊かな文化を未来に向けて、具体的な施策に市民の視点を入れて欲しい。

#### 第5章

委員・計画推進については、具体的な施策の次に出てくるもの。どのようなものをイメージしているのか具体的に記載して欲しい。

事務局・具体的なことについては、明確な方が良い。若手芸術家育成のための事業の提案をして欲しい。

委員・この計画は具体的なものに触れて完了なのか？

事務局・計画自体は明確なものにするためできるだけ反映させたい。

委員長・もっとも大事な部分である。施策に「主役は市民」というニュアンスを含め、市民が能動的になる文章にしてほしい。そこには市民の認識が必要となる。市民の視線に立っているか確認して欲しい。委員一人一人の立場ではなく、市民の立場で考えて欲しい。全ての意見が通るわけではないが、集約し検討していきたい。